

教育長賞

【題名】 どう生きるか
【学校・学年】 鳥取市立賀露小学校六学年
【氏名】 河崎 優良

僕がこの本と出会ったのは、まだ小学校に入って間もない頃だったと記憶している。そして、それから、何度も手に取り、この本の中の言葉から多くのことを学んできた。この本はいつも僕に、どう生きるか、と問いかけてくる。そして、その答えを導く教科書のような存在だと感じている。そして、この演説を世界へ届けたムヒカ大統領を心から尊敬している。

質素な背広にネクタイなしのシャツ姿で、

世界各国の代表の前に立ったムヒカ大統領をどんな思いで各国の代表は見ただろうか。その後には始まる生きた言葉の演説を予想できなかっただろうか。身なりにそれほどかまうことなく働く、ムヒカ大統領。高級な服や生活で、自分を飾る必要がないほど、ムヒカ大統領の考え方、生き方は素晴らしいと僕は思う。着ることのできる服を持っているのに、新しい服がほしいと頭をよぎると、ぼくは自分の未熟さを感じずにはいられない。まだまだ人間と

して小さい自分を腹で隠そうとしているので
はないかとさえ、考えるようになった。

ムヒカ大統領は、演説の中で「もつと豊か
になつて、ほしいものがどんどん手に入る、
ゆうふくな社会を望んでいるのではないでも
よいか」と問いかけている。否定できない自
分がここにいる。そして、「貧乏とは、少し
しか持つていないことではなく、かぎりなく
多くを必要とし、もつともつとほしがるマ
とである」との古代賢人エピクロスやセネカ

そしてアイマラ民族の言葉を引用している。

確かに、世の中には次々と新しい物が作ら
れ、そして売られていく。どこまで手に入れ
たら人は満足し、幸せと言えるのか。一人一
人が深く考え、行動しているのだろうか。

幸せこそがもつとも大切な宝、とムヒカ大
統領もはつきりと話されている。誰しもが、
普段は意識していかないかもしれないが、幸せ
になりたいという気持ちを持つていると思う。

しかし、一生懸命、幸せを追いかけるとあまり

今ある幸せに気付く心を失っていないか、立ち止まり考える必要があるのではないだろうか。身近にある幸せに気づき、大切にし、そしてまた、未来の人類の幸せの土台である時代を僕達は生きていくことを自覚しなければならぬと考える。豊かさを求めることと引き換えに、未来への課題を残すことがある。温暖化等の問題は正にその一つだと思う。

だからこそ、僕達は、社会の発展の方向性が、人間の本当の幸せにつながるかどうか、しっかりと判断し、生きていかねければならない。ムヒカ大統領のスピリットは、世界の人々への警鐘である。だからこそ、子供の僕達へも本となり、出会う機会が与えられたのだ。私利私欲のために生きる人生、そんな人生を僕は送りたいとは思わない。物事の本質を見極め、多くの人が幸せになれる時代を造りたい。ムヒカ大統領のように、弱い人に寄り添い力を尽せば、強く、そしてあたたかな人間になれるような生き方がしたいと強く思う。